

株式会社FMS ふじしま経営サポートが手がけた事業承継事例

下記の事例は当社がここ数年において事業承継に係わってきた一部の事例ですが、企業情報の漏洩に当たらない程度での情報の開示としています。

1. あるホテル会社の例

社長の急死によって融資の条件変更の書き換えが不能になる中で、複雑な相続関係を整理しつつ、又一部反対株主の株式を議決権制限株式との交換をすすめつつ、金融機関と長期の協議の結果、民事再生やスポンサーへの売却などを模索することになっていた。しかし、親族経営者を確定し、経営改善に努めた結果、その効果を認められ、長期経営計画に沿った資金計画により任意弁済することで合意。ここ数年、売上を前年比で上回るペースの経営成績を上げている。

2. ある販売会社の例

不採算店舗の整理と金融機関への協調による条件変更をすすめつつ、経営改善を行ったが、昨今の小売業の販売不振の状況の中で思うような結果が出ず、弁護士との相談の結果、民事再生に踏み切った。その後、再生計画を作成し、それに基づき日ペースの資金繰り管理を行いつつ、売上増進の経営改善や不採算部門の縮減等に努めて、現在10年の弁済計画を既に数年クリアーしつつ進行している。

3. あるIT会社の例

放漫な経営者に不満を持つ社員が、全員で退職して別会社を立ち上げるという状況の中で、経営者を説得し、社員の中から役員を加え、その役員の中から代表者を選出し、従来のままの社名で経営を継続。旧経営者は役員の一員として会社に留まって経営に参画していたが、本人の放漫の原因が個人負債にあったことが判明し、本人の株式を会社が買い取る形で負債を整理しようとしたが、負債は大きく、本人は自己破産して会社を去った。会社は新経営陣で大幅に売上を増し、ある金融機関から優良企業表彰を受けるまでになっている。

4. ある印刷会社の例

すでに極端な債務超過状態の会社であることから再建は不可能と判断し、従業員への未払賃金を確定させて、従業員代表が休眠会社を利用して別会社を急遽立上、未払賃金を原資にして旧会社の設備等を買取り、事業を継続させた。旧会社は倒産し、別会社は一時入札参加資格などが旧会社から継続できないなかで一定の困難はあったが、それを乗り越え、事業は事実上承継され継続中。

5. ある建設会社の例

社長の営業に大きく依存していた会社で、社長が大病を患った。社長の病死の直前に、親族を経営陣に加え、代表権の移譲の準備をしつつ、経営陣の体制を整備。社長没後の新経営陣による経営の結果に対して一定の評価をいただき、金融機関と協議の結果、負債の弁済10ヵ年計画を作成し、その計画に沿って現在経営を継続中。その様な中で、あるスポンサーによる経営参画の動きもあり、現在、参画条件や将来の旧経営陣の身分保障問題などの細部について協議中。